

M & A 支援の新会社

京都FG 売上高10年で5倍に

京都フィナンシャルグループ（FG）は31日、M & A（合併・買収）の支援に特化した子会社を7月1日に設立すると発表した。傘下に持つ京都銀行からM & Aの支援業務を切り出して新会社に移す。事業承継などM & Aの相談ニーズの高まりに対応し、業務の意思決定を早める。2034年度のM & A業務の売上高は50億円と現状の5倍に増やす。

京都FGの完全子会社として「京都M & Aアドバイザリー」を立ち上げる。資本金は1億円で、京都市下京区に本社を置く。京都銀の法人総合コンサルティング部でM & A支援を担う従業員を移す。当初は26人で業務を始め、34年度には100人規模まで増やす計画だ。

京都銀は01年にM & Aの支援業務を始めた。事業承継や規模拡大を目的とする企業からの依頼は増加傾向で、21～23年度の3年間は成約数が51件、手数料は20億円だった。

新会社は京都銀の営業担当のほか、スタートアップや事業承継のファンドを運営する投資事業会社の京都キャピタルパートナーズ（KCAP）とも連携も深める。京都FGの土井伸宏社長は「約25年蓄積してきた支援ノウハウがある。成約したら終わりではなく、その後のフォローまでしっかり対応できるのが当社の強みだ」と話した。専門会社とすることで「知名度を高めて専門人材を採用しやすくし、案件数を増やしたい」（京都銀の安井幹也頭取）とする。

京都銀は31日、4月1日から定期昇給とベースアップ（ベア）を合わせて従業員平均で5・5%の賃上げを実施すると発表した。ベアは3年連続で一律2・7%引き上げる。優秀な人材確保に向け、26年度入行の大卒初任給は28万5000円と従来より2万5000円上げる。初任給の引き上げは2年ぶりだ。地銀の中では高水準となる。